1. 過年度の卒業生に対するアンケート調査（卒業生調査）

（1）調査の目的

学生の卒業後の進路・就職状況等から、教育の成果や効果を検証し、本学の教育の質や内部質保証の実質化を強化する取組みの一助とする。

（2）調査の対象

2019 年度（2019 年 9 月及び 2020 年 3 月）、2014 年度（2014 年 9 月及び 2015 年 3 月）、2009 年度（2009 年 9 月及び 2010 年 3 月）の卒業生のうち有効な住所データが登録されている者・2,740 名

（3）調査の方法

郵送による協力依頼、Google フォームによる回答収集

（4）調査の期間

2025 年 12 月初旬～2026 年 2 月

（5）主な調査項目

志望順位、授業科目や課外活動についての熱心度、在学中の能力・知識の変化、教育・研究の満足度、在学中の生活全般の満足度、初職・転職・離職、大学生時代に身につける能力の重要度

（6）回収状況

全 2,740 件中、回答 230 件・回答率 8.4%

（7）調査結果の概要

本調査は回収率が高いとはいえず、回答者が卒業生全体を統計的に代表しているとは言い難いため、本結果をもって卒業生全体の傾向を断定することは適切ではない。一方で、回答を寄せた卒業生の経験や認識には、本学の教育活動を振り返り、今後の教育改善を検討するうえで参考となる示唆が含まれている。したがって、本結果は、数値の多寡や年度間の増減を厳密に評価するものではなく、回答者から寄せられた意見にみられる傾向を把握し、教育活動の点検・改善に活用するための参考資料として位置づける。

1）学生生活と能力向上について

回答者の多くは、在学中の学修や学生生活を通じて、一般的教養、専門分野の知識、協働能力、人間関係構築能力、コミュニケーション能力等が向上したと認識している。これは、回答者の属性に留意する必要はあるものの、本学の教育活動や学生生活が、知識の修得に加え、他者と関わりながら学ぶ力の形成にも一定程度寄与している可能性を示すものと考えられる。

能力項目	向上したと回答（増加計）
一般的な教養	81.3%（67.4%+13.9%）
他の人と協力して物事を遂行する能力	78.3%（47.0%+31.3%）
専門分野や学科の知識	77.3%（53.0%+24.3%）
人間関係を構築する能力	77.3%（43.0%+34.3%）
コミュニケーションの能力	75.6%（47.8%+27.8%）

2）本学の教育・研究および大学生活の満足度

本学の教育・研究には 71.3%が満足（満足 54.8%＋とても満足 16.5%）と答えている。大学時代の

学生生活については 86.5%（満足 54.3%＋とても満足 32.2%）が満足していたと回答している。一方で、教育・研究に対する満足度については、大学生活全般の満足度と比較すると相対的に低い水準にとどまっており、授業内容、学修支援、教育環境等について、学生が在学中に実感できる教育の質をさらに高める観点から検討を進める余地がある。

3）卒業後の初職志望度

卒業後最初に就いた職業については、「ほぼ志望どおり（32.6%）」または「第 1 志望（37.8%）」と回答した者が 70.4%であった。この結果は、回答者の範囲に限られるものの、本学におけるキャリア支援や進路選択支援が、卒業後の進路形成に一定程度結びついている可能性を示している。一方で、進路選択の納得度をさらに高めるためには、低年次からのキャリア意識の醸成や、学修内容と将来の進路との接続を意識した支援の充実が求められる。

4）社会経験を踏まえた能力の重要性認識

社会経験を踏まえて大学生時代に身につける能力として、コミュニケーション能力、人間関係構築能力、協働能力を重視する回答が多くみられた。これらは、卒業後の職業生活や社会生活において、専門的知識と並んで重要な汎用的能力として認識されていることを示唆している。一方で、外国語運用能力や異文化理解、グローバルな問題への理解については、相対的に重視する回答が少なかった。ただし、この結果は回答者の職種、業種、地域性等の影響を受けている可能性があるため、直ちに重要性が低いと判断するのではなく、今後の社会的ニーズや本学の教育方針と照らし合わせながら検討する必要がある。

重視する意見が多かった項目（90%以上）：

能力項目	重要計
コミュニケーションの能力	96.5%（23.5%+73.0%）
人間関係を構築する能力	94.3%（25.2%+69.1%）
協働能力（他者と協力して遂行する能力）	92.6%（26.5%+66.1%）
分析力や問題解決能力	90.9%（35.7%+55.2%）
一般的な教養	90.4%（39.1%+51.3%）
時間を効果的に利用する能力	90.4%（30.0%+60.4%）

重視する意見が低かった項目（60%未満）：

能力項目	重要計
異文化の人々に関する知識	59.1%（37.4%+21.7%）
グローバルな問題の理解	53.4%（33.0%+20.4%）
異文化の人々と協力する能力	52.6%（31.7%+20.9%）
外国語の運用能力	51.3%（30.4%+20.9%）

（8）調査結果（抜粋）

回答者の卒業年度

項目	2024 年度	2025 年度
5 年：2018/2019 年度卒業	34.1%	38.3%
10 年：2013/2014 年度卒業	34.9%	33.0%
15 年：2008/2009 年度卒業	30.4%	28.7%

回答者の学部学科

項目	2024 年度	2025 年度
経済学部	27.5%	29.1%
経営学部	29.6%	25.7%
人文学部英語英米文学科	8.7%	7.8%
人文学部社会学科	11.9%	12.6%
法学部	15.9%	19.1%
薬学部	6.3%	5.7%

本学の志望順位

項目	2024 年度	2025 年度
第 1 志望	54.2%	56.5%
第 2 志望	34.4%	31.3%
その他	11.1%	12.2%

大学の授業科目や課外活動についてどの程度熱心に取組んだか

※「やや熱心」＋「熱心」の合計割合を比較

項目	2024 年度	2025 年度
A. 全学教育（一般教養科目）	60.1%	67.4%
B. 外国語科目	49.2%	53.5%
C. 専門科目（実験除く）	63.2%	64.4%
D. 専門科目（実験）	35.2%	44.4%
E. ゼミや実習	72.5%	74.8%
F. 卒業論文・卒業研究	57.1%	61.7%
G. 部・サークル活動	50.3%	52.2%
H. 資格の取得	42.6%	42.6%
I. アルバイト	67.7%	70.9%
J. ボランティア	22.0%	25.7%

在学中を振り返って能力や知識がどのように変化したか

※「増えた」＋「大きく増えた」の合計割合を比較

項目	2024 年度	2025 年度
A. 一般的な教養	84.7%	81.3%
B. 分析力や問題解決能力	70.4%	74.3%
C. 専門分野や学科の知識	77.8%	77.3%
D. 批判的に考える能力	54.2%	60.4%
E. 異文化の人々に関する知識	52.4%	54.4%
F. リーダーシップの能力	49.5%	50.9%
G. 人間関係を構築する能力	81.0%	77.3%
H. 他の人と協力して物事を遂行する能力	81.2%	78.3%
I. 異文化の人々と協力する能力	36.0%	41.8%
J. 地域社会が直面する問題を理解する能力	45.0%	52.1%
K. 国民が直面する問題を理解する能力	39.2%	47.8%
L. 文章表現の能力	62.2%	66.1%
M. 外国語の運用能力	38.6%	39.1%
N. コミュニケーションの能力	77.8%	75.6%
O. プレゼンテーションの能力	61.1%	57.0%
P. 数理的な能力	32.0%	33.1%
Q. コンピュータの操作能力	64.0%	65.2%
R. 時間を効果的に利用する能力	66.7%	69.5%
S. グローバルな問題の理解	34.4%	37.4%
T. 就職に向けた情報収集能力	66.9%	69.6%

大学時代の最も長期の留学経験

項目	2024 年度	2025 年度
渡航したことはない	84.7%	86.5%
10 日未満	1.1%	3.9%
10 日以上 1 ヶ月未満	7.1%	4.3%
1 ヶ月以上 6 ヶ月未満	4.5%	3.0%
6 ヶ月以上	2.6%	2.2%

本学の教育・研究の満足度

項目	2024 年度	2025 年度
とても不満	0.5%	0.9%
不満	0.8%	3.5%
どちらとも言えない	32.5%	24.3%
満足	51.6%	54.8%

とても満足	14.3%	16.5%
【満足計（満足+とても満足）】	65.9%	71.3%

大学時代の生活全般の満足度

項目	2024 年度	2025 年度
とても不満	0.5%	1.3%
不満	1.1%	1.3%
どちらとも言えない	13.8%	10.9%
満足	56.9%	54.3%
とても満足	27.5%	32.2%
【満足計（満足+とても満足）】	84.4%	86.5%

初職の就業形態

項目	2024 年度	2025 年度
無期雇用（正社員）	89.9%	87.0%
有期雇用（フルタイム勤務）	6.3%	10.0%
有期雇用（短時間勤務）	1.6%	1.3%
その他（自営など）	1.1%	1.3%
仕事についたことがない	0.8%	0.4%

初職の業種

項目	2024 年度	2025 年度
農林漁業	0.5%	1.3%
建設業	4.3%	3.5%
製造業	8.1%	5.7%
電気・ガス・熱供給・水道業	1.1%	0.4%
情報通信業	5.1%	4.8%
運輸業、郵便業	3.8%	3.5%
卸売業、小売業	16.7%	17.0%
金融業、保険業	15.9%	15.2%
不動産業、物品賃貸業	3.2%	1.7%
学術研究、専門・技術サービス業	2.2%	0.9%
宿泊業、飲食業	0.8%	0.4%
生活関連サービス業、娯楽業	4.0%	4.8%
教育、学習支援業	3.2%	5.2%
医療、福祉	11.6%	10.4%

公務（他に分類されないもの）	14.0%	17.4%
その他（指定外回答・無回答含む）	5.5%	7.8%

初職の志望度

項目	2024 年度	2025 年度
全く納得していない	2.1%	3.0%
やや不満	5.9%	7.4%
どちらでもない	22.5%	18.7%
ほぼ志望どおり	32.9%	32.6%
第 1 志望	36.6%	37.8%
【志望達成計（ほぼ志望どおり+第 1 志望）】	69.5%	70.4%

社会経験を踏まえて大学生時代に身につける能力の重要性はどの程度あると考えるか
※「どちらかといえば重要」＋「重要」の合計割合を比較

項目	2024 年度	2025 年度
A. 一般的な教養	89.4%	90.4%
B. 分析力や問題解決能力	90.7%	90.9%
C. 専門分野や学科の知識	60.3%	67.0%
D. 批判的に考える能力	62.2%	71.7%
E. 異文化の人々に関する知識	54.5%	59.1%
F. リーダーシップの能力	81.7%	85.3%
G. 人間関係を構築する能力	96.3%	94.3%
H. 他の人と協力して物事を遂行する能力	94.4%	92.6%
I. 異文化の人々と協力する能力	51.6%	52.6%
J. 地域社会が直面する問題を理解する能力	65.3%	70.0%
K. 国民が直面する問題を理解する能力	62.7%	67.0%
L. 文章表現の能力	88.1%	89.6%
M. 外国語の運用能力	52.1%	51.3%
N. コミュニケーションの能力	95.5%	96.5%
O. プレゼンテーションの能力	83.3%	80.4%
P. 数理的な能力	65.9%	68.7%
Q. コンピュータの操作能力	92.6%	88.2%
R. 時間を効果的に利用する能力	92.9%	90.4%
S. グローバルな問題の理解	51.1%	53.4%

2.　卒業生の就職先等の進路先の意見聴取等の調査（進路先調査）

（1）　調査の目的

学生の卒業後の進路・就職状況等から、教育の成果や効果を検証し、本学の教育の質や内部質保証の実質化を強化する取組みの一助とする。

（2）　調査の対象

2025 年度に採用実績がある企業・団体・576 社

（3）　調査の方法

郵送による協力依頼、Google フォームによる回答収集（一部メールアドレスを把握している企業等へはメールによる依頼も実施し、セキュリティ方針により Google が使用できない場合は Excel ファイルの授受にて対応）

松山大学に関する意識調査及び卒業生に関する評価の 2 部構成で実施

（4）　調査の期間

2026 年 1 月中旬～8 月 31 日（月）

（5）　主な調査項目

松山大学に関する意識調査

本学の教育活動・本学の取組み・卒業生が身に付けている力の評価、総合的な満足度、今後の連携や要望等

松山大学の卒業生に関する評価

採用選考時の評価・入社後の評価、総合的な満足度、在職・離職状況

（6）　回収状況

576 件中、回答 97 件・回答率 16.8%

（7）　調査結果の概要

今回は 2024 年度卒業生の採用実績がある企業を調査対象とし、キャリアセンターが送付する「求人のための大学案内」に添えて調査協力依頼を郵送した。アンケートの回収率は 16.8%であった。調査結果の概要は以下のとおりである。

1）全体的には高評価であった。松山大学に関する総合的な満足度は平均 8.21 点、8 点以上の比率は 75.3%であり、卒業生に対する総合的な満足度も平均 8.46 点、8 点以上の比率は 76.8%であった。ただし、記名式調査であることを踏まえると、「どちらともいえない」は「やや不足している」程度、「やや不足している」は「不足している」程度として、一段厳しめに解釈することが妥当である。

2）本学についての評価では、教育活動において「一般教養」が 83.5%と最も高く、専門教育が 76.3%、実践教育が 75.3%と続く。本学の取組みとしては、「企業連携」が 88.7%、「地域社会とのかかわり」と「学生の学習環境の整備」が 82.5%と相対的に高く評価されている。一方、「研究成果等の地域への還元」は 58.8%にとどまっており、2025 年度からは改善しているものの、引き続き課題として捉える必要がある。教育活動については、一般教養のみが高いと判断するのではなく、専門教育・実践教育等を含めた教育活動全体の評価をさらに高めていくことが必要である。また、各教員の研究成果等を地域に還元できるよう、URA の養成等に力を入れていく必要がある。

3）松山大学の学生が身につけている力として、全学のディプロマ・ポリシーに掲げている 5 つの項目を挙げた設問では、「多様な人々と相互に理解し合い、協働するために必要なコミュニケー

ション能力」が 90.7%と比較的高く評価された。また、「専攻分野に関する専門知識及び技能と現代社会で必要とされる教養」は 87.6%、「修得した知識及び技能を社会や生活の中で活用できる実践的能力」は 86.6%であった。一方、「変化する社会の中で、自ら課題を見つけ、学びを継続できる力」は 78.4%であり、他項目と比較すると相対的に低かった。この点は、学生が知識・技能を活用し、継続的に学び続ける力をどのように育成・可視化するかについて、カリキュラム等の検討を要する点であると考えられる。

4）個別の卒業生の採用に関しては、「人柄」が 95.8%、「意欲」が 80.0%と高く、筆記試験の結果 16.8%や専攻学科・専攻内容 8.4%を大きく上回っている。採用段階では、専門性や試験結果よりも、人柄や意欲が重視されている傾向が明確に示されている。

5）個々の卒業生に対する評価は、あくまでサンプル調査としての結果ではあるが、採用選考時には「面接時の応対」95.8%、「礼儀やマナー」94.7%、「コミュニケーション力」93.7%が高く評価されている。入社後の業務遂行に関する評価でも、「チームワーク・協調性」及び「学ぶ姿勢・成長意欲」の 91.6%、「コミュニケーション力・対人関係」及び「責任感・粘り強さ」の 90.5%が高い。一方で、「専門知識」は 53.7%、「ICT の知識・技能」は 35.8%、「外国語運用能力」は 21.1%にとどまっており、これらは「どちらともいえない」又は「業務に必要ない」とする回答の影響にも留意しつつ、全学的な課題として引き続き検討が必要な事項であると考えられる。

(8) 調査結果（抜粋）

① 松山大学に関する意識調査

本学の教育活動

※「力を入れている」の割合を比較

項目	2025 年度	2026 年度
一般教養	83.3%	83.5%
専門教育	62.7%	76.3%
実践教育	66.7%	75.3%
社会人としての常識	74.5%	68.0%
課外活動（スポーツ）	71.6%	72.2%
課外活動（文化活動）	67.6%	64.9%

本学の取組み

※「力を入れている」の割合を比較

項目	2025 年度	2026 年度
地域社会とのかかわり	81.4%	82.5%
企業連携	75.5%	88.7%
メディアの活用	64.7%	71.1%
学生の実践・経験の場の創出	69.6%	76.3%
学生の学習環境の整備	83.3%	82.5%
研究成果等の地域への還元	44.1%	58.8%

卒業生が身に付けている力

項目	2025 年度	2026 年度
専攻分野に関する専門知識及び技能と現代社会で必要とされる教養	77.5%	87.6%
修得した知識及び技能を社会や生活の中で活用できる実践的能力	83.3%	86.6%
多様な人々と相互に理解し合い、協働するために必要なコミュニケーション能力	92.2%	90.7%
変化する社会の中で、自ら課題を見つけ、学びを継続できる力	78.4%	78.4%
社会や地域、コミュニティの発展に主体的に貢献できる行動力	86.3%	84.5%

本学の総合的な満足度（10 点満点）

項目	2025 年度	2026 年度
平均点	8.34 点	8.21 点
8 点以上の比率	79.4%	75.3%

② 卒業生に関する評価

対象卒業生を採用しようと思った理由（複数選択可）

※この項目は、該当する評価を受けた被評価者の割合を示す。

選択肢	2025 年度	2026 年度
1.松山大学だから	38.3%	26.3%
2.専攻学科・専攻内容	9.2%	8.4%
3.インターンシップ等での印象	29.2%	21.1%
4.適性検査の結果	37.5%	26.3%
5.筆記試験の結果	17.5%	16.8%
6.意欲	80.0%	80.0%
7.人柄	93.3%	95.8%
8.地元出身者だったため	28.3%	17.9%
その他	10.0%	3.2%

採用選考時における対象卒業生への印象

※「良い」＋「非常に良い」の合計割合を比較

項目	2025 年度	2026 年度
礼儀やマナー	93.3%	94.7%
コミュニケーション力	90.8%	93.7%
意欲・主体性	87.5%	85.3%
応募書類の完成度	85.8%	89.5%
面接時の応対	96.7%	95.8%

対象卒業生の業務遂行に関するご評価

※「良い」＋「非常に良い」の合計割合を比較

項目	2025 年度	2026 年度
基本的なビジネスマナー	90.0%	88.4%
専門知識＊	45.8%	53.7%
業務理解力・吸収力	87.5%	87.4%
コミュニケーション力・対人関係	90.8%	90.5%
問題解決力・実践力＊	74.2%	77.9%
自ら行動する力＊	75.8%	77.9%
チームワーク・協調性	92.5%	91.6%
責任感・粘り強さ	83.3%	90.5%
学ぶ姿勢・成長意欲	87.5%	91.6%
外国語運用能力＊	8.3%	21.1%
ICT の知識・技能＊	19.2%	35.8%

＊は「どちらともいえない」「業務に必要ない」の比率が高い項目

対象卒業生に対する総合的な満足度（10 点満点）

項目	2025 年度	2026 年度
平均点	8.38 点	8.46 点
8 点以上の比率	76.7%	76.8%